

1920(大正 9)年 8 月 18 日に創設された京都大学工学部建築学教室は、昨年 2020(令和 2)年に 100 周年を迎えました。1990(平成 2)年に創立 70 周年記念行事を開催して以降 5 年ごとに創立記念行事を行ってまいりましたが、今回も 95 周年に引き続き 100 周年を記念する式典を開催いたしました。本来であれば、2020 年に実施する予定でしたが、新型コロナウイルスのため 1 年延期した上で、時計台記念館を配信拠点としたオンラインとのハイブリッド開催となりました。

創立以来、建築学教室では、高い水準の教育・研究を行い、多くの優秀な人材を育成し、生活の質を高める建築や都市の創造に大いに貢献してきました。21 世紀も 20 年が過ぎた今日、地球環境問題をはじめ、人口減少、エネルギー、気候変動などこれまで経験したことのない多くの問題が顕在化しています。人々の暮らしに直結する建築学が果たす役割は大きく、これまでの実績を踏まえて新たな時代に対応した教育・研究のありかたを考える必要があります。

大学教育を巡る環境も年々変化してきました。2004(平成 16)年 4 月に大学が法人化され、次いで同年 9 月に建築学専攻、2006(平成 18)年 9 月に都市環境工学専攻(建築コース)が桂キャンパスへ移転し、併せて吉田キャンパスでも 2005(平成 17)年春に、主に 3 年生以下の学部教育を行う講義室・製図室等が工学部 7 号館(以前の建築新館)から工学部 3 号館北棟に移りました。2020 年 4 月には、桂キャンパスに図書館が開館し、それまで各学科・専攻で運営してきた図書室が、桂図書館に集約されて一体運用される改革が進んでいます。

社会の変化に対応し、新たな時代の建築を拓いていくためには、建築学教室の教員、学生のみならず社会の中で活躍している同窓生が協働していく必要があります。そのため、歴史を振り返り未来を考える契機となることを期して、創立 100 周年記念事業を実施しました。京大建築会の会員の皆様とともに、京大建築学教室の将来像について、共に考えていくことができれば幸いと思い、本稿にて記念事業の実施報告を

致します。

■記念事業の概要

百周年を記念する行事として、国際ワークショップ、総会、記念コンペティション表彰式、記念シンポジウムを 2021 年 8 月 28 日(土)に京都大学百周年時計台記念館において実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場には最小限の約 30 名が集まり、行事の進行を致しました。その模様は、Zoom のウェビナーによりオンライン配信され 561 名の方に視聴頂きました。また、2021 年 3 月に記念出版書籍を刊行しました。

記念事業の各項目の概要は下記の通りです。

1) 国際ワークショップ

国際ワークショップ「海外ネットワークのプラットフォーム」は、神吉紀世子教授(平成元)の司会、鉾井修一名誉教授(昭和 48)のコーディネーションで 10:30~12:00 に開催されました。

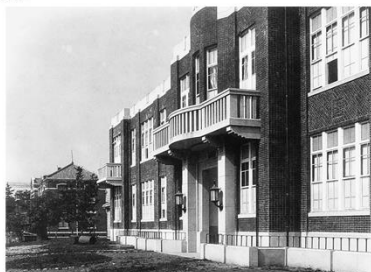
元留学生などの海外在住の京大建築会会員とは、建築会本部との連絡や、情報交換などがこれまであまり活発ではありませんでした。しかし、近年の留学生の増加や、国境を越えた教育・研究活動の増加、建設業のグローバル化を考えると、京大建築会もグローバル化が欠かせません。このワークショップでは、京大建築学科または建築系専攻を卒業・修了された元留学生の会員をお招きし、京大卒業後の教育・研究もしくは実務活動の近況をお話し頂き、海外在住の卒業生との連携方法を考えました。詳細は(3)国際ワークショップをご覧ください。

2) 写真で見る 100 年

昼休みの時間帯には、京大建築会会報の掲載写真をはじめとする写真資料から作成した百年間の歴史的場面を概観するスライドを上映しました。これは、大谷真准教授(平成 11)が大阪支部の協力を得てとりまとめたものです。そのうちの 1 枚を次図に示します。



1920年度（大正9年度）



建築学科設置（1920.8）

建築学教室本館竣工（1922）

写真で見る 100 年 スライド

3）京大建築会総会

京大建築会総会は、田路貴浩教授（昭和 61）の司会進行により、14:00～15:00 に開催されました。会場参加者 21 名、オンライン参加者 286 名、合計 307 名で定足数を満たし、総会が成立しました。

まず始めに、記念事業実行委員長の原田から記念事業の趣旨を説明し、開会挨拶を申し上げました。次に、金多潔会長（昭和 28）のご挨拶を頂きました。金多会長は、オンラインでご出席され、あらかじめ収録されたビデオメッセージによりお話し頂きました。まず始めに、これまでの京大建築の業績と未来に向けた活動は好ましいものであり、継続してほしいとの願いが述べられました。続いて、歴史を振り返ると、戦争、敗戦、教育制度改革、大学紛争、国立大学法人化、桂キャンパスへの移転など様々な苦難を乗り越えてきたことを改めて認識し、未来に向かって魅力のある建築学教室を創ることがで



金多会長のご挨拶

きるようにと祈念されました。

続いて来賓祝辞として湊長博総長から学内の各同窓会へ向けたビデオメッセージを上映いたしました。2006 年 11 月に設立され、現在では 125 の同窓会組織が加入している京都大学同窓会の現況が紹介され、コロナ禍で困窮する学生への支援に謝意を述べられました。

榎木哲夫工学研究科長には、桂キャンパスからオンラインでご参加頂き、ご祝辞を賜りました。第 46 代工学研究科長の辻文三先生を始め、大型科学研究費による共同研究、リーディング大学院プログラムなどでの建築学教室との交流がご自身の財産になったことを述べられました。建築は自然との境界条件を敢えて曖昧にして、自然との調和を大切にしてきたことから、コロナ禍の時代にも人の心をまとめ上げる人工物を作り出す建築学教室の尽力にご期待を述べられました。

常任委員会報告では、高野靖教授（昭和 55）から活動報告が行われました。設計演習の非常勤講師への謝金支払い、優秀修士論文賞の授与、教員と学生の懇親会のサポート等を定型的活動として実施してきました。ここ最近では、教育環境整備にも注力しており、コロナ対策としての清掃・消毒の充実、機材整備、桂キャンパス C2 棟 4 階の改修工事等を行い、その一部に会員の皆様から頂いた寄付金を充てたことが報告されました。

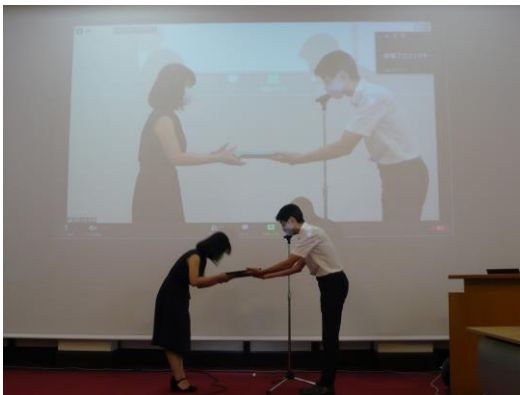
教室現況報告は、神吉紀世子教授（副会長、建築学科長）により行われました。現在の学生数は、学部は 345 名（うち 89 名が女子）、修士は 157 名（同、37 名）、博士は 62 名（同、11 名）であることが報告されました。前回 95 周年の 2016 年度以後の特色としては、半期で 15 週の講義を行う事が制度化されたこと、Kyoto iUP 等の制度が創設され海外からの留学生受入れが拡充してきたこと、建築学教室の見える化のためホームページ「京大建築式」を開設したことなどがあります。そこに、2020 年からコロナウイルスが蔓延し、オンライン化への対応を迫られました。最近ではオンラインを逆手にとって、遠隔での講演会、展示会などの催しも始まってきました。

基金の設立については、金多隆教授（平成 6 修）より説明が行われました。基金の趣旨は、100 周年記念事業の実施に加え、教育環境の改善、

若手研究者の育成、国際学術ネットワークの拡充、産学連携の推進などです。総会時点までに484名の方からの寄付を頂いています。

記念出版については、2020年度の総長裁量経費の補助を受けて「京都大学建築学 100年の歩み」が刊行されたことが、神吉紀世子教授より報告されました。詳細は(6)記念出版をご覧ください。

続いて、優秀修士論文賞の表彰を行いました。これは、修士論文の成果が著名な学術雑誌に掲載されたものを表彰する制度です。例年は、洞龍会(教員と名誉教授の懇親会)で行ってきたものを今年は総会で行いました。表彰者は、泉悠斗、早川健太郎、Jian Jiao、Liu Yuanの4名の方々です。



優秀修士論文賞の表彰

続いて、京大建築会の規約改正が審議されました。主な改正点は、会長を「最年長の名誉教授」から「卒業生で本学の名誉教授または教授のうちから選任する」としたこと、会長の任期を定めたこと、総会の成立に必要な出席者に電磁的方法を含む委任状を認めることです。副会長の神吉紀世子教授より説明が行われ、原案通り決議されました。その後、改訂された規約に基づき、中村恒善名誉教授(昭和31)が新会長に推薦され、承認されました。

会長ご就任にあたり、中村先生よりオンラインでご挨拶を頂きました。同窓会には、生き方計画と人生の展開方法の智慧をリレーするしくみと場を提供する役割があること、学生たちに新時代向けの進路選定に役立つように情報を与えること、成功された人の生き方の工夫の記録

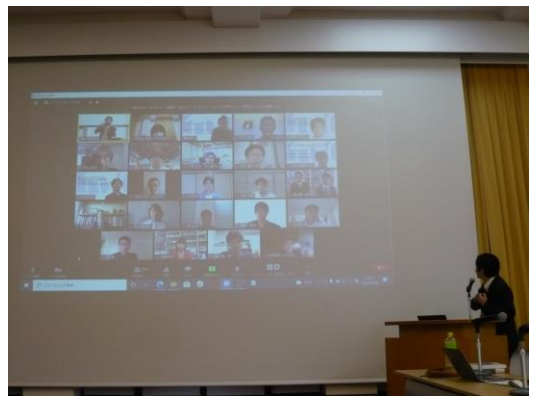
を会報に寄稿すること等の役割が考えられます。教室の発展を通じて在学生のレベルの向上を図ることも大切です。百周年は次の百年への新展開(Commencement)と考え、厳しい時代であっても学生に道標を示すことが大切です。会長には実務で実績のあるリーダーも選任できるようにした方が良く、指導力を発揮することが求められています。

以上で総会を終了し、引き続いて協賛事業「増田友也の建築世界」展の紹介が田路貴浩教授より行われました。増田研究室で作成された建築図面、写真、メモ等の整理作業が完了したことを機に京大博物館で展示会を開催するものです。

4) 記念コンペティション表彰式

100周年を記念したコンペティションは、「これからの街の遺伝子」と題してアイデア部門および実作部門の2部門で行われました。平田晃久教授(平成6)により企画運営され、OBがボランティアで審査員を務め、関東支部メンバーにより事務局運営が行われました。作品は7/26まで受付け、7/29に審査会が開催されました。

表彰式は15:00~15:50に開催され、両部門とも、金賞、銀賞、銅賞および佳作5件が表彰されました。詳細は(4)記念コンペティションをご覧ください。



記念コンペティション表彰式

5) 記念シンポジウム

記念シンポジウムは「歴史の中の京大建築・社会の中の京大建築～世代を繋ぐリレートーク」と題して、聲高裕治教授の司会進行で16:00

～18:10 に行われました。世代と分野が異なるパネリスト 5 名にご講演頂き、京大建築の歴史と役割、将来の発展を考える機会となりました。詳細は(5)記念シンポジウムをご覧ください。



記念シンポジウム

6) 卒業設計作品展

慣例では卒業設計を祝賀懇親会会場にポスター展示して行ってきましたが、今回は近年の最優秀作品(武田五一賞受賞作品)を集めた作品集を編纂し、当日資料に含めて配付しました。とりまとめは吉田哲准教授(平成 4)、柳沢准教授(平成 11)によるものです。詳細は(7)卒業設計作品展をご覧ください。

以上のように、100 年で起こったことを 1 日で振り返る盛り沢山の内容でした。そのため、予定の時間を 1 時間ほどオーバーし、若干慌ただしく終了することとなりました。続きは是非とも次回の周年記念事業に続けていきたいと思えます。

■記念行事の準備・実施について

記念事業の準備及び実施については、会長、副会長、支部長、物故者供養塔運営委員長からなる組織委員会を設立し、実施内容、方法の大枠を検討して参りました。具体的な準備は実行委員会(準備会)により行い、神吉紀世子教授、金多隆教授、平田晃久教授、聲高裕治教授、大谷真准教授、西野智研准教授(平成 19)、事務局の奥村真知子さん、黒川優子さんにご参画頂きました。

冒頭に述べましたように、当初は一堂に会し

ての記念事業を 2020 年に企画しておりました。そのため、2018 年 11 月に最初の準備会を開催し、内容の企画検討を始めております。その後、新型コロナウイルスの感染拡大が起こったため、2020 年 4 月の段階で 1 年延期する決断をしました。当時は、夏を越せばウイルスは無くなるものと考えており、延期して対面での実施を想定していました。しかし、コロナウイルスは、楽観的な予想を超えて夏を過ぎても収まらず、2021 年 3 月の段階で対面での実施を断念してオンライン開催に変更することとなりました。この間、開催方式が定まらないので、内容の検討も思うように進まず、実行委員長としてはコロナウイルスの状況に一喜一憂しながら胃が痛くなるような日々でした。オンライン(ハイブリッド)開催が決まった後は、多くのことを矢継ぎ早に決めていく日々でした。

発起人については、各学年で発起人推薦人を指名させて頂き、各学年からの発起人を推薦して頂きました。最終的には 612 人の方々にお引き受けいただくことができました。

事業の運営に関しては、会員の皆様方からご寄付頂いた基金からの支出でまかないました。記念コンペティションについては、京大建築会の運営費から支出を行いました。また、記念出版に関しては総長裁量経費の補助を受けて出版し、基金で買い入れて釀金者へ進呈しました。詳細については(2)会計報告をご覧ください。

末筆になりましたが、オンラインという不十分な形で開催となりましたが、多くの会員の方々にご参加頂けたこと、企画から実施に至る過程での様々な側面において、組織委員会、実行委員会の皆様、発起人の皆様を始め、関係する方々のサポートを頂きましたこと、実行委員長として深く感謝申し上げます。